

# 胃を切った人・胃腸のリハビリ情報紙

# ALPHA CLUB

8月号 第374号

### Medical Advisers

- 会長 青木 照明 (慈恵医大客員教授)
- 外科指導 進藤 勝久 (近畿大学名誉教授)
- 内科指導 酒井 義浩 (東京医大客員教授)
- 外科指導 北島 政樹 (国際医療福祉大学学長)
- 漢方・外科指導 銅谷 欣市 (昌平クリニック院長)
- 外科指導 吉野 肇一 (国際医療福祉大病院教授)
- 外科指導 上西 紀夫 (公立昭和病院院長)
- 特別顧問 日野原重明 (聖路加国際病院理事長)

アルファ・クラブの 医師と患者の話し合い  
**合言葉** 患者同志の助け合い

### ●アルファ・クラブ 宣言

胃を切った人は自らの努力と工夫で、術後の後遺症を克服してゆこう。そして普通の人よりむしろプラス・アルファ元気に長生きしよう。

世話人代表 山神 英司

正会員 病院会員3,105名(本紙回覧の申込院)  
個人会員2,995名(年間購読の患者数)

http://www.alpha-club.jp

点滴注射も、私の両上肢の静脈は露出が少ないため、担当の看護師には苦勞をかけた。「何回、刺してもよろしいよ」と話して、

### あるふも随筆

#### 胃切除後の3年目



こいけ たいへい 小寺 太平

禁煙の推奨 私は昭和40年の頃から、周囲の方々に禁煙を推奨してきました。私たちの呼ばは、身体に酸素を取り込むことを目的としております。ところが喫煙者の場合、長年の喫煙の結果、肺臓内の絨毛の損傷が著しくなり、そのため喫煙者の酸素の摂取量は、非喫煙者に比してかなりの減少をきたします。

短縮されます。従前、喫煙者は肺癌に罹病することが多いといわれてきました。昨今は、頭の先から足の先まで諸々の疾患の最大の誘因の一つは喫煙となっています。私の老化防止策 日々、規則正しく生活基盤の時刻を守ることを大切にしております。朝食は午前6時半です。ヨグルトを毎日飲み、酸素吸入(酸素吸入には甲論乙駁もありますが)。身体のうちで最も酸素を必要とするのは脳神経です。また、1カ月に平均100kmの歩行に努めています。同時に、血流がよまなないように1日2Lの水分摂取を目標にしています。

整形成外科医として推奨しているのは、下肢には足踏み体操(脳の刺激にもなります)、上肢の運動にはダンベル使用が最適です。最後に、私は進歩した医療を享受し、幸運を受けていることに感謝して、でき得る限り、社会に還元したいと考えています。

元・小寺外科院長(大阪) 整形成外科医

病院会員：全国の主要病院からの本紙送付申し込みにより、消化器系の先生方と病院患者方々に回覧されています。

### 医師と患者 心音



よしはら としお 吉原 としお 俊雄

東京女子医科大学耳鼻咽喉科教授

### 忘れ得ぬ患者

## 心優しい反逆の漫画家Tさん

今も心に残っているのは15年以上前、私が助教時代に出会った患者Tさんです。Tさんはある一時代を駆け抜けた、強烈な個性と反逆精神を持った漫画家でした。左頸部のリンパ節が腫れたため、私どもの病院を訪れました。初診時の触診では硬く腫大したリンパ節で、転移性のものとまず考えられました。咽頭や喉頭、食道など頭頸部領域原発の癌が疑われ、入院と精査を勧めました。生検の結果、中咽頭癌および頸部リンパ節転移が判明し、その治療法についてはご本人の意向を尊重しつつ決定をしました。化学療法と頸部郭清、そして原発巣は放射線療法を選択したと記憶しています。残念なことに根治は困難でしたが、闘病中は漫画を描く時間

をなるべく長くすること、意識が朦朧となるような麻薬を極力避け、アイデアが枯渇しないようにすることが最大の目標となりました。その間の奥様の協力は力強く、本人の創作活動の支えとなっていました。病状がさらに進行すると、気道確保のために気管切開術を行いました。そして自宅での生活も必要と考え、いったん退院しました。しかし、栄養がとれなくなり、止むなく再入院となりました。入院中、気管切開をした状態でも漫画を描き続けておられました。その間、海外に住んでおられたお嬢さんとそのご主人が見舞いに訪れ、Tさんは自慢のお嬢さんを我々に紹介し、お嬢さんの手を取ってダンスのように回転させ、とても幸せそうな表情をされていたのを思い出します。かつてテレビなどで見ていた反逆児の印象と異なり、優しい人柄であったこと、奥様とお嬢さんをこよなく愛されていたことが強く印象に残っています。家族に愛されていたの最期は幸せだったと思います。入院中に描いていただいたのサイン入りの、そして「吉原先生へ」と記載のあるほのぼのとした漫画(野原で牛が団扇を持ってヤカンの横で鼻を垂らして昼寝をしている)は癒されるモチーフで、今では私の部屋の一部となっています。

### 第一三共ヘルスケア

## おなかにしっかり届く、乳酸菌のクスリだよ。



### 便秘



### 軟便

有孢子性の乳酸菌だから、胃酸に負けず腸まで届く。

パンラクミンの主成分ラクボンは、熱に強い胞子の状態で胃を通過する乳酸菌。胃酸にも負けず、かんじんな腸で発芽して効果的に作用します。パンラクミンで、腸内の善玉菌を守り、いつもおなかを快調に保ちましょう。

<有孢子性> 乳酸菌整腸薬

## パンラクミン錠

適応症：整腸(便通を整える)、便秘、軟便、腹部膨満感、消化不良、もたれ、食欲不振。

製品に関する詳しい情報はこちら <http://daichisankyo-hc.co.jp/>



指定医薬部外品



# 抗癌剤の副作用で流涙症に悩む

涙があふれ、道ではぶつかり、つらい毎日――

アルファ・クラブ個人会員

宮崎

紀 (73歳)



## 告知・入院・手術

平成20年12月25日、勤務先の会社と提携している産業医院の内科医の紹介状と胃の内視鏡の写真を持って、東京のがん研有明病院を訪れた。

消化器センター長の山口俊晴先生(同病院副院長)は数枚の検査表と写真を確認しながら、温和な表情で「きつぱりと、「胃癌です」といわれた。喫煙習慣は皆無で、飲酒も得手でない私が「なぜ?」と思ったが、事実

意外にも冷静に事後の入院、手術について先生に相談した。同病院は、がん診療連携拠点病院で癌専門病院のため、全国からの患者で手術待ちの状態であったが、幸運にも年末休みの12月29日に入院することができ、たいへん安心感を覚えた。

翌年の1月9日に手術し、幽門側3分の2を切除した。ステージⅢAの進行癌で、リンパ節に15個の転移があり、それらを郭清したが、取れない部位に2個ほど残存しているとのこと。快適な入院生活を送り、1月21日に退院した。退院後は検診と抗癌剤治療で通院することになった。

## 妻のうつ病

退院後は10日ほど家で養生した。勤務は会社の計らいで3時間ぐらいの軽勤務から始めた。

私の入院中、妻は往復3時間かけて病院に日参してくれた。また、退院後は10日ほど家で養生した。勤務は会社の計らいで3時間ぐらいの軽勤務から始めた。



院後の食事には、いつそう気を配り、栄養や調理にいろいろ工夫してくれました。妻は何事にも真面目に取り組み性格で、しかも私の癌という思いもかけない病気に對する気苦労が積み重なったのか、3月10日の朝、起床するなり突然「死にたい」と訴えてきた。「眠れない。つらい」といい、癌に對して妻なりに家族目線で精一

杯受け止めていたのである。

というのも私の抗癌剤の副作用と術後の後遺症が少しずつ現れてきたからだ。流涙、体重減少(75kgから55kgに)、早期・後期ダンピング症状、食欲不振、口角炎、下痢などが現れ、その症状が複数に重なり、まさに「癌と闘う」という表現が当てはまった。私は心配をかけたくなかったので、副作用のつらさは極力口に出さないでいたが、日常の振舞いで妻はそのつらさを感じとり、心労が重なっていたのであろう。

妻は早速、心療内科を受診し、初期の「うつ病」と診断された。私の癌は治療中で、とりあえず問題はなので、妻の病気を何とかしなくてはと思い悩んだ。私は、私と一緒に癌と向き合う生活から妻を解放させなければと、転地療法を思いついた。すぐに長男夫婦、次男夫婦に事情を打ち明け、妻ができるだけ遠くで癌を忘れられるようにと、大阪の次男夫婦宅で世話になることにした。

大阪での妻は、一瞬でも夫の病気を忘れられる非日常な環境が良かったのである。一日一日と元氣を取り戻し、快方に向かっていた。一方、長男が私の予後と副作用を心配して、「夜中に倒れたら大変だ」と泊まり込んでくれた。妻の姉たちも心配して、妻の容体や私の自炊生活を何かと気遣ってくれた。

者が話した内容を2点、細かい部分は省くが紹介する。  
① ティーエスワンの発売当初から、流涙の副作用についてはわずかの報告があったが、近年のように服用者の約5人に1人程度の割合で発現していることは予想していなかった。  
② 薬の添付文書を改訂したり、病院や癌担当の医師や眼科の医師に文書で情報提供をしている。

とのことである。  
後日談がある。現在、東京の大病院の眼科に通っているが、担当医から「あなたのことについて、大鵬薬品の学術部長から報告がありましたよ。患者さんの生の声を製薬会社に届けることはとても有意義なことです」といわれた。ティーエスワンを服用している方は、流涙の兆候が出たら、直ちに主治医とよく相談してほしいと私は主唱する。

私は今年の10月と来年の4月に検診が決まっている。主治医の山口先生から「よく頑張った」と握手をさされて、診察を終わることを願って無理のない毎日を送っている。  
(埼玉県蕨市)

## ● 体験記募集 (4000字×5枚)

後遺症と闘うあなたの体験記を、会員の皆様にご披露ください。掲載の際は顔写真をいただきます。(採用の方には図書カード3000円分贈呈)

療養中の私は、スーパーでの食材購入で気がまぎれ、好きな料理作りを楽しんだ。朝昼晩の食事作りは妻が帰宅するまで、1日たりとも欠かさなかった。というのも抗癌剤は必ず食後に服用するという決まりなので、料理を作ってそれに従っていた。妻は今も処方された薬を服用してはいるが、以前のように屈託なく明るく振舞っている。私も癌治療に専念している。一時は妻の病気にうろたえたが、家族を始め、縁ある方たちの励ましや心遣いには、たいへんありがたい感謝している。

## 治らない流涙症(なみだ目)

話を戻すが、平成21年2月、抗癌剤ティーエスワンが処方され、服用が始まった。6月頃から副作用が出てきたが、同時に両眼から涙が出るようになり、薬を服用しない期間、いわゆる休薬期間でも流涙はやむことなく続いた。流涙の副作用については、メーカーの「服用の手引き」や「ティーエスワンによる眼の副作用について」(日本涙道・涙液学会/日本角膜学会 監修)の冊子に説明されているが、服用をやめれば本当に流涙が止まるのか、疑問が生じた。

平成24年3月28日、3年間のティーエスワン服用は終了し、抗癌剤化学療法はやっと完了した。これからは他の副作用と同様に流涙の症



福島県の会津・鶴ヶ城を背に(2013年4月)

状は軽くなっていくものと期待したが、変わることはなかった。朝、起床すると涙が乾いて、まつ毛にまといついている。両眼が塞がっているので熱いタオルで両眼を湿布し、手を添えてまぶたを開き、それから1日が始まる。朝刊に目を通す。10分くらいで涙で活字が読める。用意したガーゼで涙を拭く。老犬チッチが朝の散歩を催促するので歩き出すと、止めどもなくあふれる涙。強風や寒風のときの涙の量は半端ではなく、眼鏡の下からほおを伝わり流れ落ちる。歩きながら涙を拭き、眼を閉じると電柱に思い切りぶつかる。すれ違う歩行者や自転車に触れ、危険なので散歩がだんだんおっくうになる。

## 『日刊ゲンダイ』の記事

テレビは二重に見えるし、見ていると頭が痛くなってくる。本も活字を追っていくのがつらい。云々。人間として日常生活を営むうえでの原点である「物を見る」という活動と行動が、以上のように大幅に制約されてしまう流涙という副作用が今も後遺症として続いており、毎日、この繰り返しである。

平成25年2月14日の『日刊ゲンダイ』紙で、「抗がん剤が招く目の副作用」の題で、柏木広哉先生(静岡県立静岡がんセンター眼科部長)の記事が紹介された。以下に要点を抜粋する。「抗がん剤はさまざまな副作用を伴うが、見過ごされがちなのはなみだ目など目の周辺の副作用だ。代表的なのはなみだ目を招く涙道通過障害です。消化器系のがんに使われる経口抗がん剤ティーエスワンで引き起こされることが圧倒的に多い。重症化すると涙道に不可逆的な変化が生じ、なみだ目に一生苦しむことになりかねません」(以下略)

## 流涙の兆候が出たらすぐに相談を

この記事を読み、私の症状はのとおりだと、やっと疑問が解消したが、涙道の機能が一生元に戻らないこともわかった。そして私のように苦しむことのないように事前の対処法がなかったのだろうかと思ひ、メーカーの大鵬薬品工業株式の窓口担当者と今年の5月に面会した。担当